グループ抽出

テーブルのレコードを、キーの値ごと、またはレコード数ごとに、複数の新しいテーブルに分ける（フォルダキーの値ごとにフォルダも分けられる）

◇機能

《グループ抽出》は、開いているテーブルのレコードを、「グループキーフィールド」の値ごと、または指定したレコード数ごとに分けて、複数の新しいテーブルを作成する機能です。作成するテーブルには、「抽出フィールド」で選択したフィールドが出力されます。「フォルダキーフィールド」を選択すると、その値ごとにフォルダが作成され、テーブルはそのフォルダの中に作成されます。元のテーブルは変更されません。

例は、キー「商品No」、抽出フィールド「単価」「数量」、フォルダ「グループ抽出」、テーブル名「売上」の場合です。商品Noの値ごとに3つのテーブル（「グループ抽出¥A01¥売上_A01」など）が作成されます。図の「テーブル」の列は、レコードが入るテーブルの名前です。

元のテーブル（売上明細）

売上日	商品No	単価	数量
2024/04/10	A01	1200	4
2024/04/12	B02	800	3
2024/05/20	A01	1200	2
2024/05/25	C03	500	1
2024/06/15	B02	800	5
2024/06/20	A01	1000	1



作成されるテーブル（3つ）

テーブル	商品No	単価	数量
売上_A01	A01	1200	4
売上_A01	A01	1200	2
売上_A01	A01	1000	1
売上_B02	B02	800	3
売上_B02	B02	800	5
売上_C03	C03	500	1

※作成するテーブルのフィールドは、キーにしたフィールドが先頭に並び、その後に「抽出フィールド」で選択したフィールドが選択した順に並びます。フィールド名・データ型・書式は元のテーブルと同じです。

※各テーブルのレコードは、元のテーブルの順のままです。

※大文字・小文字、全角・半角は区別されます（例：「A01」と「a01」「Ａ01」は別のテーブルです）。記号だけが違う値（「A/01」と「A 01」など）も別のテーブルです。

※テーブルの名前と保存先は、「◇グループ抽出の結果」の「■ 作成されるテーブルの名前と保存先」を参照してください。

◇メニュー

《加工》-《グループ抽出》

※テーブルを開いている場合に使用できます。開いているテーブルが分ける元のテーブルになります。

※テーブルの画面で条件式を設定している場合は、その条件式が「条件式」に入力された状態で開きます。

※操作ログからグループ抽出のコマンドを修正することもできます（「■ 操作ログからコマンドを修正する場合」参照）。

■ 操作ログからコマンドを修正する場合

操作ログでグループ抽出のコマンドを修正すると、コマンドの内容が設定された状態で画面が開きます。

※「フォルダキーフィールド」「グループキーフィールド」「抽出フィールド」は、コマンドに記述された順に選択されます。フォルダキーのないコマンドの場合、「フォルダキーフィールド」は選択されません。

※テーブルにないフィールドは選択されません。

※レコード数で分けるコマンドの場合は、「レコード数」が選択され、レコード数が入力されます。

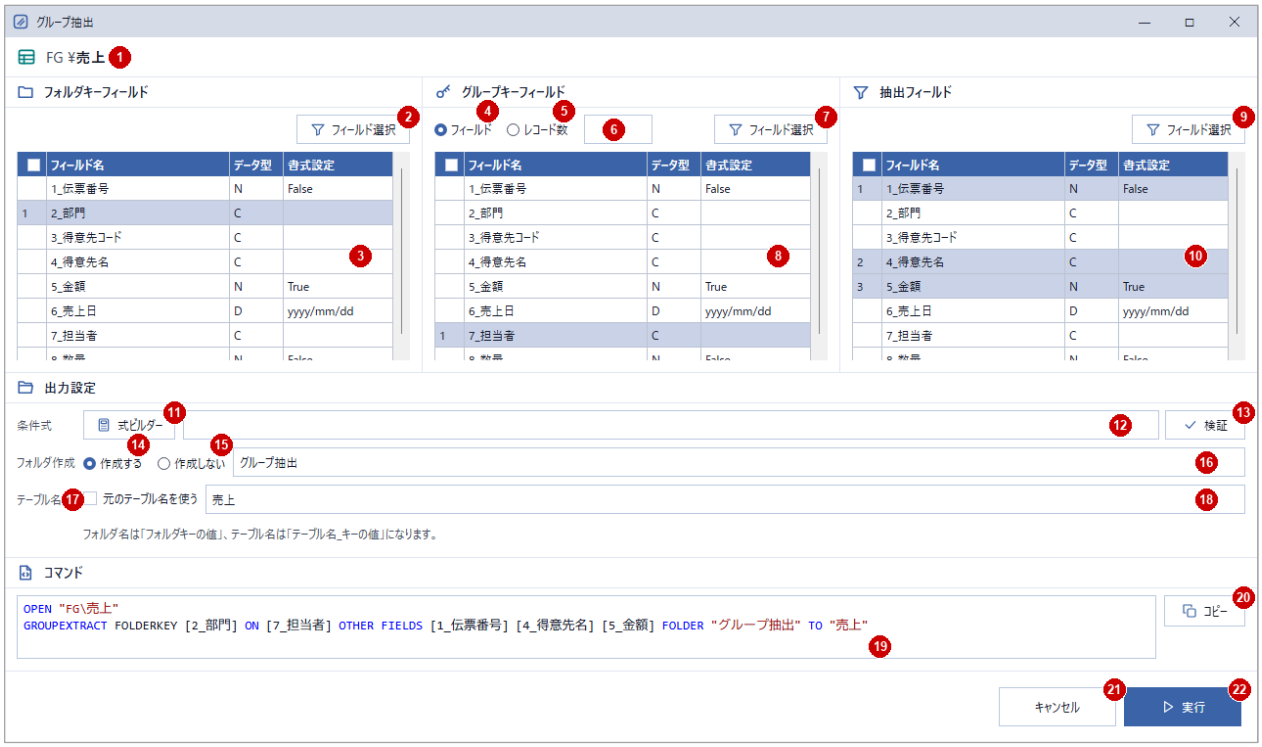
※条件式は、コマンドの内容がそのまま入力されます。テーブルの画面の条件式は使用されません。

※フォルダを作成しないコマンドの場合は、「作成しない」が選択されます。フォルダ名の欄には、初期値の「グループ抽出」が表示されます。

※「テーブル名」と「元のテーブル名を使う」は、コマンドのとおりに設定されます。

© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.

◇設定内容



1. 元のテーブル　：分ける元のテーブルの、フォルダ名とテーブル名が表示されます。

2. 《フィールド選択》ボタン　：「フィールド選択」画面を開き、フォルダキーにするフィールドをまとめて選択・解除できます。

3. フォルダキーフィールド（任意）　：フォルダを分けるキーにするフィールドの行をクリックして選択します（もう一度クリックで解除）。選択すると、その値ごとにフォルダが作成され、テーブルはそのフォルダの中に作成されます（「■ フォルダキーを選択した場合」参照）。
   - 選択しない場合は、これまでどおり、キーの値ごとにフォルダが作成されます（「レコード数」の場合はフォルダなし）。
   - 複数選択した場合は、選択したすべてのフィールドの値の組み合わせごとにフォルダが作成されます。左端の番号は選択した順番です。
   - 「グループキーフィールド」と同じフィールドも選択できます。「フィールド」「レコード数」のどちらでも使用できます。
   - 選択すると、テーブル名の下の説明が「フォルダ名は「フォルダキーの値」、テーブル名は「テーブル名_キーの値」になります。」に変わります。
   - フォルダキーのフィールドは、作成するテーブルには出力されません。出力する場合は、「抽出フィールド」でも選択してください。

4. フィールド　：「グループキーフィールド」の値ごとにテーブルを分けます。初期値です。

5. レコード数　：6に入力したレコード数ごとに、元のテーブルの順にテーブルを分けます（「■「レコード数」を選択した場合」参照）。

6. レコード数の値（レコード数）　：1つのテーブルに入れるレコード数を、1以上の整数で入力します。「レコード数」を選択した場合に入力できます。
   - 数字だけを入力できます。

7. 《フィールド選択》ボタン　：「フィールド選択」画面を開き、キーにするフィールドをまとめて選択・解除できます。

© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.

8. グループキーフィールド（フィールド）：テーブルを分けるキーにするフィールドの行をクリックして選択します（もう一度クリックで解除）。1つ以上選択します。
   - 複数選択した場合は、選択したすべてのフィールドの値の組み合わせごとにテーブルが作成されます。
   - 左端の番号は選択した順番です。この順に、作成するテーブルの先頭にフィールドが並び、テーブル名のキーの値がつながります。
   - 見出しのチェックボックス（またはCtrl+A）で、すべてのフィールドを選択・解除します。
   - 「レコード数」を選択すると使用できなくなり、選択は解除されます。「フィールド」に戻した場合は、選択し直してください。
9. 《フィールド選択》ボタン：「フィールド選択」画面を開き、「抽出フィールド」をまとめて選択・解除できます。
10. 抽出フィールド（必須）：作成するテーブルに出力するフィールドの行をクリックして選択します。1つ以上選択します。
    - 選択した順に、キーのフィールドの後ろに並びます。キーと同じフィールドを選択しても、1回だけ出力されます。
    - 見出しのチェックボックス（またはCtrl+A）で、すべてのフィールドを選択・解除します。
11. 《式ビルダー》ボタン：「式ビルダー」画面を開き、フィールドや関数を選んで条件式を作成できます。
12. 条件式（任意）：テーブルを分ける前に、レコードを絞り込む条件を入力します。空欄の場合は、すべてのレコードが対象です。
    - 入力中に、関数やフィールドの候補が表示されます（Ctrl+Spaceで表示、Escで閉じます）。
    - 「×」で入力内容を消去します。正しい条件式であることを確認すると、緑の「✓」が表示されます。
13. 《検証》ボタン：条件式が正しいかを確認します（Ctrl+Enter）。誤りがある場合は、メッセージが表示されます。
14. フォルダ作成：作成する：「04_table」フォルダの中に、作成するテーブルをまとめるフォルダを作成します。初期値です。
15. フォルダ作成：作成しない：「04_table」フォルダに、直接テーブルを作成します。16は使用できません。
16. フォルダ名（作成する）：作成するフォルダの名前を入力します。初期値は「グループ抽出」です。
    - 空欄の場合は、「作成しない」と同じです。
    - 記号（「*」など）や「..」を含む名前は、実行時にエラーになります。
17. 元のテーブル名を使う：オンにすると、作成するテーブルの名前が「元のテーブル名_キーの値」になります。18は使用できません。初期値はオフです。

© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.

18. テーブル名（任意）　：作成するテーブルの名前の先頭に付ける文字を入力します。テーブル名は「入力した文字_キーの値」になります。
- 空欄の場合は、キーの値だけがテーブル名になります。
- 「フォルダ名¥テーブル名」のように入力すると、16のフォルダの中に、そのフォルダが作成されます。
- テーブル名の長さは、64文字までです。「04_table」フォルダ以外の場所は指定できません。
- 記号（「-」「.」「＃」など）や全角スペースは使用できません。
- 名前の最後に「¥」「/」、途中に「..」は入力できません。
- 「入力した文字_キーの値」が64文字を超える場合は、入力した文字の後ろが短くされます（キーの値は残ります）。
- 元のテーブルと同じ名前は使用できません（大文字・小文字が違っても同じ名前とみなされます）。

19. コマンド　：現在の設定で実行されるコマンドが表示されます（「◇操作ログ」参照）。キー（またはレコード数）と「抽出フィールド」を指定すると表示されます。

20. 《コピー》ボタン　：コマンドをクリップボードにコピーします。

21. 《キャンセル》ボタン　：実行せずに画面を閉じます（Escキー）。確認メッセージで「はい」を選択すると閉じます。

22. 《実行》ボタン　：実行します（Enterキー）。正常に終了すると画面が閉じ、作成したテーブルがテーブルの一覧に追加されます。
- 作成されるテーブルが100を超える場合は、続行してよいかの確認メッセージが表示されます。「いいえ」を選択すると、実行せずに画面に戻ります。

■「レコード数」を選択した場合

「グループキーフィールド」は灰色になり、使用できません。6にレコード数を入力します。



■「元のテーブル名を使う」をオンにした場合

「テーブル名」は使用できません。入力済みのテーブル名は残りますが、チェックされず、使用されません。



© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.

◇グループ抽出の結果

設定によって、作成されるテーブルは次のようになります。例は「◇機能」と同じテーブルです。

■ キーを複数選択した場合

キー「商品No」「単価」の値の組み合わせごとに、テーブルが作成されます。テーブル名のキーの値は「_」でつながります。

元のテーブル（売上明細）

売上日	商品No	単価	数量
2024/04/10	A01	1200	4
2024/04/12	B02	800	3
2024/05/20	A01	1200	2
2024/05/25	C03	500	1
2024/06/15	B02	800	5
2024/06/20	A01	1000	1



作成されるテーブル（4つ）

テーブル	商品No	単価	数量
売上_A01_1200	A01	1200	4
売上_A01_1200	A01	1200	2
売上_A01_1000	A01	1000	1
売上_B02_800	B02	800	3
売上_B02_800	B02	800	5
売上_C03_500	C03	500	1

※作成するテーブルの先頭には、キーにしたフィールドが選択した順に並びます。選択する順を変えると、列の順とテーブル名が変わります（例：「売上_1200_A01」）。

■ 「レコード数」を選択した場合

レコード数「4」の例です。元のテーブルの順に4件ずつ分けられ、テーブル名は「テーブル名_最初の番号_最後の番号」になります。

元のテーブル（売上明細）

売上日	商品No	単価	数量
2024/04/10	A01	1200	4
2024/04/12	B02	800	3
2024/05/20	A01	1200	2
2024/05/25	C03	500	1
2024/06/15	B02	800	5
2024/06/20	A01	1000	1



作成されるテーブル（2つ）

テーブル	売上日	商品No	数量
売上_1_4	2024/04/10	A01	4
売上_1_4	2024/04/12	B02	3
売上_1_4	2024/05/20	A01	2
売上_1_4	2024/05/25	C03	1
売上_5_6	2024/06/15	B02	5
売上_5_6	2024/06/20	A01	1

※最後のテーブルは、指定したレコード数より少なくなることがあります。レコード数がテーブルのレコード数以上の場合は、1つのテーブル（例：「売上_1_6」）になります。

※キーの値ごとのフォルダは作成されません。作成するテーブルには、「抽出フィールド」だけが出力されます。

※条件式を入力した場合は、条件に合うレコードだけを数えます。テーブル名の番号は、条件に合うレコードの中での順番です。

■ 条件式を入力した場合

条件に合うレコードだけがテーブルに分けられます。条件式「[数量] >= 2」では、「C03」のレコードがないため、「C03」のテーブルは作成されません。

元のテーブル（売上明細）

売上日	商品No	単価	数量
2024/04/10	A01	1200	4
2024/04/12	B02	800	3
2024/05/20	A01	1200	2
2024/05/25	C03	500	1
2024/06/15	B02	800	5
2024/06/20	A01	1000	1



作成されるテーブル（2つ）

テーブル	商品No	単価	数量
売上_A01	A01	1200	4
売上_A01	A01	1200	2
売上_B02	B02	800	3
売上_B02	B02	800	5

© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.

※条件に合うレコードがない場合も、エラーにはならず、レコードが0件のテーブルが1つ作成されます。

■ フォルダキーを選択した場合

フォルダキー「店舗」、キー「商品No」、抽出フィールド「数量」の例です。店舗の値ごとにフォルダが作成され、その中に商品Noの値ごとのテーブルが作成されます。

元のテーブル（店舗別売上）

店舗	商品No	数量
東京	A01	4
大阪	B02	3
東京	A01	2
大阪	A01	1
東京	B02	5
大阪	A01	1



作成されるテーブル（4つ）

テーブル	商品No	数量
大阪¥売上_A01	A01	1
大阪¥売上_A01	A01	1
大阪¥売上_B02	B02	3
東京¥売上_A01_1	A01	4
東京¥売上_A01_1	A01	2
東京¥売上_B02_1	B02	5

※テーブル名は、1回の実行の中で同じ名前にならないように、後から作成されるテーブルに「_1」「_2」…が付きます（フォルダが違っても同じです）。フォルダは値の順（例：「大阪」→「東京」）に作成されます。

※フォルダキーの「店舗」は、作成するテーブルには出力されません。

※「レコード数」と組み合わせた場合は、フォルダごとに、元のテーブルの順にレコード数ずつ分けられます。テーブル名の番号は、フォルダごとに1から数えます（例：「大阪¥売上_1_2」「東京¥売上_1_2_1」）。

■ 作成されるテーブルの名前と保存先

テーブルは「04_table」フォルダの中に、次のように作成されます（「◇機能」の例。元のテーブルは「売上明細」）。

設定	作成されるテーブル（「04_table」フォルダから）
フォルダ「グループ抽出」、テーブル名「売上」	グループ抽出¥A01¥売上_A01（「◇機能」の例）
テーブル名が空欄	グループ抽出¥A01¥A01
「元のテーブル名を使う」をオン	グループ抽出¥A01¥売上明細_A01
テーブル名「月別¥売上」	グループ抽出¥月別¥A01¥売上_A01
「作成しない」	A01¥売上_A01
「レコード数」	グループ抽出¥売上_1_4
「レコード数」、「作成しない」、テーブル名が空欄	1_4
フォルダキー「店舗」	グループ抽出¥大阪¥売上_A01
フォルダキー「店舗」、「レコード数」	グループ抽出¥大阪¥売上_1_4

※「フィールド」の場合は、キーの値ごとにフォルダが作成され、その中にテーブルが作成されます。

※テーブル名のキーの値は、記号や空白が「_」に置き換えられます（例：「A/01」→「A_01」、「-30.00」→「_30_00」）。

※日付は「2024/04/10」→「2024_04_10」、日付時刻は「2024/04/10 09:00:00」→「2024_04_10t09_00_00」になります。

※文字型の空欄の値は、「_」1文字として名前に使われます。フォルダキーの値からフォルダ名を作る場合も同じです。

※Windowsで使用できない名前（「CON」「NUL」「COM1」など）には、最後に「_」が付きます（例：「CON_」）。

※名前は64文字までです。同じ名前になる場合は、フォルダは「(1)」「(2)」…、テーブルは「_1」「_2」…が付きます（大文字・小文字の違いは同じ名前とみなされます）。

※保存先のパスが長すぎる場合は、Windowsの上限に収まるようにフォルダ名・テーブル名が短くされます。

© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.

◇入力内容に誤りがある場合

《実行》ボタンをクリックしたときに、「抽出フィールド」やキーが選択されていない、レコード数が整数でない、テーブル名に使用できない文字があるなどの誤りがあると、画面の左下にメッセージが表示され、該当する項目が赤枠で示されます。項目を修正するとメッセージは消え、《実行》ボタンが使用できるようになります。



※条件式に誤りがある場合（フィールドがない、文字と数値を比較しているなど）は、実行時に誤りの内容を示す画面が表示されます。

※フォルダ名の誤りや、レコード数が「0」の場合も、実行時に誤りの内容を示す画面が表示されます。

※いずれも画面は閉じないので、内容を修正してもう一度実行してください。

◇操作ログ

OPEN "元のテーブル"
GROUPEXTRACT FOLDERKEY [フォルダキー1] ･･･ **ON** [キー1] [キー2] ･･･ **OTHER FIELDS** [フィールド1] ･･･
IF 条件式 **FOLDER** "フォルダ名" **TO** "テーブル名"

各キーワードの意味は、次のとおりです。

キーワード	内容	設定内容
OPEN "元のテーブル"	分ける元のテーブルを開きます	1
FOLDERKEY [フォルダキー1] ･･･	フォルダキーフィールド。選択した順に記述します	3
FOLDERKEY ALLFIELDS	すべてのフィールドをフォルダキーにします	3
ON [キー1] ･･･	グループキーフィールド。選択した順に記述します	8
ON ALLFIELDS	すべてのフィールドをキーにします	8
ON RECORDS レコード数	指定したレコード数ごとに分けます	5、6
OTHER FIELDS [フィールド1] ･･･	抽出フィールド。選択した順に記述します	10
OTHER ALLFIELDS	すべてのフィールドを出力します	10
IF 条件式	テーブルに分けるレコードの条件	12
FOLDER "フォルダ名"	作成するフォルダの名前	16
TO "テーブル名"	テーブル名の先頭に付ける文字	18
ORIGIN TABLE NAME	元のテーブル名をテーブル名に使います	17

※「レコード数」の場合は、「ON [キー1] ･･･」の代わりに「ON RECORDS レコード数」と記述されます。

※すべてのフィールドを行の順に選択した場合は、「ON ALLFIELDS」「OTHER ALLFIELDS」と記述されます。

※下線部は、フォルダキーを選択した場合、条件式、フォルダ名（「作成する」の場合）、テーブル名を入力した場合に記述されます。

※「元のテーブル名を使う」をオンにした場合は、「TO "テーブル名"」の代わりに「ORIGIN TABLE NAME」と記述されます。

■ コマンドを直接記述する場合（スクリプトなど）

※フィールド名は「[ ]」で、フォルダ名とテーブル名は「"」で囲んで記述します。オプションは上の順に記述します。

※「ON」の後のキー（「ALLFIELDS」「RECORDS レコード数」）と「OTHER」の後のフィールドは省略できません。

※「RECORDS」のレコード数は、1以上の整数を記述します。0以下はエラーになります。

※「FOLDERKEY」は「ON」の前に記述し、フィールド（または「ALLFIELDS」）を1つ以上記述します。省略した場合は、フォルダキーなしになります。

※テーブルにないフィールドを記述したり、「OTHER FIELDS」に同じフィールドを2回記述したりすると、エラーになります。

※「TO」に「C:¥」から始まるような絶対パスは記述できません。

© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.

※「TO」「FOLDER」に「..」を含めたり、「FOLDER」に「*」などの記号を使ったりすると、エラーになります。

オプションの例（「◇グループ抽出の結果」と同じテーブル。「FOLDER」「TO」は省略）

コマンドの記述	作成されるテーブル
ON [商品No] OTHER FIELDS [単価] [数量]	「A01」「B02」「C03」の3つ（「◇機能」の例）
ON [商品No] [単価] OTHER FIELDS [数量]	「A01_1200」「A01_1000」「B02_800」「C03_500」の4つ
ON RECORDS 4 OTHER FIELDS [売上日] [商品No] [数量]	「1_4」「5_6」の2つ
ON [商品No] OTHER FIELDS [単価] [数量] IF [数量] >= 2	「A01」「B02」の2つ
ON [商品No] OTHER ALLFIELDS	3つのテーブルに、すべてのフィールドを出力します
FOLDERKEY [店舗] ON [商品No] OTHER FIELDS [数量]	「大阪」「東京」フォルダに2つずつ（「■ フォルダキーを選択した場合」の例）

例

```
OPEN "売上¥売上明細"
GROUPEXTRACT ON [商品No] OTHER FIELDS [単価] [数量] FOLDER "グループ抽出" TO "売上"
GROUPEXTRACT ON RECORDS 1000 OTHER ALLFIELDS FOLDER "売上_分割" ORIGIN TABLE NAME
GROUPEXTRACT ON [商品No] OTHER ALLFIELDS IF [売上日] >= `20240401` FOLDER "商品別"
OPEN "売上¥店舗別売上"
GROUPEXTRACT FOLDERKEY [店舗] ON [商品No] OTHER FIELDS [数量] FOLDER "店舗別" TO "売上"
```


© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.